

みなみかぜ

No. 583 2024.10.1

編集 黒石・厚南・西宇部人権学習会
みなみかぜの集い

発行 宇部市隣保館厚南会館

こんな世の中で良いのだろうか

宇部市立西宇部小学校 6年 笹原月琶

ある日、いつものようにユーチューブを開き、コメントを読んでいると、画面をスワイプする手が止まりました。そこには、「きもい」「うざい」「死ねばいいのに」「顔も見たくない」などのアンチコメントがありました。これは、いわゆる誹謗中傷です。名前も顔も分からない人達から、特定のユーチューバーに向けて言葉の刃が飛んでいました。このアンチコメントを見て、私は少し動揺しました。

数日後、誹謗中傷を受けたユーチューバーは、活動休止になっていました。それを耳にして、すごく残念な気持ちになりました。

数週間経ったころ、活動休止から復帰したユーチューバーは、笑顔で撮影をしていました。その顔を見て、辛いと思っているのだろうか、可哀想だなと私は思いました。なぜなら、無理をしているようにしか見えなかったからです。アンチコメントを書いた人達は、今、何を思っているのだろうかと疑問に思いました。ユーチューバーが復帰しても、アンチコメントに終わりはありませんでした。

数カ月後、誹謗中傷が原因で、このユーチューバーはグループを脱退しました。グループの脱退を知り、本当にこんな世の中で良いのだろうかと怒りを感じました。そして、アンチコメントを書いた人達は、すごく無責任だなと私は思いました。インターネットの中で、名前も顔も分からない人達からアンチコメントが来るなんて、私はすごく嫌です。けれど、このユーチューバーは、最後まで笑顔で動画を撮っていて、すごいなと思いました。

この出来事をきっかけに、私は二つのことを学びました。一つ目は、インターネットは人を傷つけるためのものではないということです。二つ目は、誰かの言葉一つで、傷つく誰かがいるということです。現在、SNSが広がっている世の中になって、このような誹謗中傷やいじめなどが増えてきています。SNSによって傷つく人達を減らすためには、どうしたら良いのか考えてみました。私は、自分の言葉に責任を持つことが大切だと思います。なぜなら、言葉には大きな働きがあるからです。それは、人との関係を繋げる働きです。言葉を話さなければ、人間関係は成

り立ちません。だから、人は言葉を使って話します。そこで、普通に話せばいいものを、人から言われて嫌な言葉を使って話す人がいます。聞き手からすると、とてもいやな気持ちになります。そうすると、この人苦手だなと思われたり、避けられたりして、人間関係が悪くなります。だから、私は自分の言葉に責任を持って話していきたいと思いました。みなさんもこれからの社会で、SNSによって傷つく人達を減らすためには何が大切かを考えてみてください。

【学校名、学年は、令和5年度における学校、学年です。】

10月3日は、「犯罪被害者支援の日」です。

もしも、自分自身や周囲の人が犯罪被害に遭ってしまったら…。犯罪の被害を受けた人は、犯罪によって傷つけられるだけでなく、事件が解決した後も様々な問題を抱えることになります。犯罪の被害に遭った人が一日も早く平穏な暮らしを取り戻すためには、周囲の人たちが、犯罪被害者等が置かれた状況を理解することが大切です。

“ 犯罪被害者が抱える様々な問題 “

- ◆精神的ショックや身体の不調
- ◆医療費の負担や失職、転職などによる経済的困窮
- ◆捜査や裁判の過程における精神的、時間的負担
- ◆周囲の人々によるうわさ話やマスコミの取材・報道による精神的被害

※〈政府広報オンライン「決して他人ごとではありません。犯罪被害者を支えるには？」
(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/3.html>) を加工して作成〉

◎地方公共団体における犯罪被害者支援総合的対応窓口

宇部市役所 市民活動課交通防犯対策係 TEL 34-8235

【巡回職業相談 ～就職活動に関する個別相談～】 〈申込要、無料〉

- 日時 令和6年10月15日(火) 15:00～16:30 《相談可能時間》
- 会場 隣保館厚南会館
- 申込 ☎31-0164 部門コード 44# ハローワーク宇部 専門援助部門
※申込×切 10月9日(水)

【みなみかぜの集い ～黒石・厚南・西宇部人権学習会～】 〈申込不要、無料〉

- 日時 令和6年10月23日(水) 18:30～20:00
- 会場 黒石ふれあいセンター 2階 世代交流ホール
- 内容 講演 「ヤングケアラーについて」
講師 フリースクールさなぎ 代表 白石貴美